

運 輸

1. 評価対象企業（18 社）

【陸 運】（13 社）

東急、小田急電鉄、東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、東京地下鉄、西武ホールディングス、阪急阪神ホールディングス、ヤマトホールディングス、山九、九州旅客鉄道、SG ホールディングス、NIPPON EXPRESS ホールディングス

【海 運】（3 社）

日本郵船、商船三井、川崎汽船

【空 運】（2 社）

日本航空、ANA ホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	36
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	19
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		14	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 20 名（所属先 16 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価分野のうち**経営陣の IR 姿勢等**および**フェア・ディスクロージャー**を中心に項目数・内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 70.1 点（昨年度 68.2 点）、総合評価点の標準偏差は 5.5 点（昨年度 5.0 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較して見ると、高得点順に、空運（2 社）74.7 点（昨年度 73.1 点）、海運（3 社）74.6 点（昨年度 72.0 点）、陸運（13 社）68.2 点（昨年度 66.6 点）となった。昨年度に続き、空運が業態別のトップとなった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 67%（昨年度 66%）、**説明会等**が 75%（昨年度 72%）、**フェア・ディスクロージャー**が 78%（昨年度 94%）、**ESG 関連**が 71%（昨年度 67%）、**自主的情報開示**が 63%（昨年度 58%）となった。昨年度に比べて、4 分野

において平均得点率が上回ったが、**フェア・ディスクロージャー**は大きく下回った。

- ④ 評価項目（全 14 項目）を見ると、平均得点率が 80%以上と高水準のものは、次の**説明会等**の 1 項目であった。

(a) 「会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切ですか」（平均得点率 82%〔昨年度 75%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：60%台 1 社・70%台 3 社・80%台 12 社・90%台 2 社）

- ⑤ 一方、次の**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目(a)および**自主的情報開示**の中の 1 項目(b)は、50%台以下となり、(a)は全項目の中で最も低い水準となった。

(a) 「社外取締役が投資家の代弁者としての役割期待を十分に理解した上で、投資家の要請に応じていますか」（平均得点率 52%〔昨年度 48%〕）（得点率：30%台 2 社・40%台 6 社・50%台 5 社・60%台 4 社・70%台 1 社）

(b) 「情報開示充実の一環として、社外取締役の役割発揮状況について、株式市場の間で理解が深まるような機会を十分に設けていますか」（平均得点率 56%〔昨年度 50%〕）（得点率：30%台 2 社・40%台 3 社・50%台 6 社・60%台 3 社・70%台 3 社・80%台 1 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 東日本旅客鉄道（ディスクロージャー優良企業〔9 回目〕、

総合評価点 78.3 点〔昨年度比+5.3 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率（以下省略）78%）、**自主的情報開示**（84%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 1 位（82%）、**説明会等**が第 2 位（82%）、**ESG 関連**が同得点第 5 位（74%）となった。昨年度に比べて、5 分野のうち 4 分野において得点率が改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役に関する項目」が昨年度に比べ得点率が大きく改善し、最も高い評価となった。これに関連して、社外取締役とのミーティングや IR Day 等での対話を通じて、率直かつ有益な議論が行われ、投資家の期待事項への理解や取締役会での議論の把握につながっている点を評価する声が寄せられた。「IR 部門の機能」も同様に得点率が改善し、最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門には経営トップの考えを含む情報が十分に集積されており、CFO や IR 担当役員のみならず IR 担当者も経営への理解が深いことから、有益かつスムーズで意義のあるディスカッションが可能である点を評価する声があった。また、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」も、同様に得点率が改善し、同得点第 1 位となった。これに関連して、経営トップは企業価値向上への意識が高く、CEO ミーティングの定期開催や投資家との対話内容の経営計画への反映、ROE 等の意欲的な目標設定を通じて、その姿勢が投資家に伝わっている点を評価する声が寄せられた。また、投資家との対話を重視し、質問に対して明確な回答を行うなど、市場との目線合わせに努めている点を評価する声があった。このほか、「経営トップが企業価値向上の手段としての ESG や、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」は、同得点第 4 位となった。これに関連して、経営トップは、資本政策や企業価値向上に向けた取り組みについて積極的かつ明確な情報発信を行っており、中期経営計画のアップデートや不動産売却の進捗説明、キャッシュアロケーションの考え方の開示に加え、資本コストや株価を意識した経営の定期的な発信を通じて、投資家との対話を踏まえた企業価値向上施策を網羅的かつ詳細に説明している点を評価する声が寄せられた。なお、安全・品質やガバナンスに関する課題への対応の迅速化に加え、事業別 ROIC や投資判断基準に関する開示のさらなる充実を望む声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2 項目計）が、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 2 位（昨年度第 11 位）となった。これに関連して、収益および財務分析に必要な情報については、開示資料が網羅的かつ充実しており、鉄道事業の費用見通しの開示再開に加え、モビリティ以外のセグメントについても事業戦略や KPI を含めた詳細な情報が提供されていること、また

NPV・IRRの目線開示など投資判断に有用な情報が示されている点を評価する声が寄せられた。このほか、情報開示におけるセグメント別・事業別の区分けについては概ね適切であり、事業別の KPI やサブセグメントに関する定量開示が充実している点を評価する声があった。なお、採用する KPI と企業価値向上との関係性や、不動産事業の成長ドライバーである開発利回り等の継続開示の充実等を望む声もあった。「説明会における開示」は第3位であった。これに関連して、決算説明会等においては、会社側が補足説明を含めて丁寧かつ詳細な説明を行っており、質疑応答においても質問に対して示唆に富む回答がなされるなど、投資家・アナリストの理解促進に資する対応を評価する声が寄せられた。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM 対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること。また、ウェブサイトで有用な情報提供（月次・過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を日英両言語でタイムリーに行っていること」は同得点第1位となった。これに関連して、輸送トラブルなど投資家にとって重要な事項については、投資家向け説明会の実施やその後の SR 面談によるフォローアップなど、迅速かつ丁寧な情報提供に努めている点を評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「経営の重要課題（マテリアリティ）に関連する項目」が、昨年度に比べて得点率が大きく改善し、第3位（昨年度同得点第6位）となった。「ダイバーシティなどの人的資本に関連する項目」および「ガバナンスの実効性に関連する項目」は共に同得点第4位に、「気候変動問題に関連する項目」は同得点第7位となった。これらに関連して、ESG 関連情報については、マテリアリティおよび KPI の見直しにより事業活動との関係性が明確化されたことに加え、CO₂削減目標の追加設定やロードマップの提示、人的資本に関する具体的な取り組み開示が大幅に改善している点を評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「情報開示充実の一環として、社外取締役の役割発揮状況について、株式市場の間で理解が深まるような機会を十分に設けていること」および「ESG 説明会・施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」が、昨年度に比べて得点率が大きく改善し、共に最も高い評価（同得点第1位を含む）となった。これらに関連して、社外取締役が懇親会等の場で投資家と率直かつ有意義な意見交換を行い、対話の機会を積極的に設けている点を評価する声が寄せられた。なお、整備新幹線や輸送障害に関する情報発信および説明のさらなる充実を望む声もあった。また、充実していたイベントとして、羽田空港アクセス線見学会などを挙げる声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 九州旅客鉄道（総合評価点 76.4 点〔昨年度比+1.0 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、自主的情報開示が第2位（81%）、経営陣の IR 姿勢等（74%）、説明会等（81%）が第3位、フェア・ディスクロージャー（80%）、ESG 関連（74%）が同得点第5位となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役に関する項目」が第2位となった。これに関連して、社外取締役との議論やミーティングを通じて、事業への貢献や投資家との対話に積極的に取り組んでいることを評価する声が寄せられた。「IR 部門の機能」は同得点第2位となった。これに関連して、IR 部門には十分な情報が集積されており、説明は丁寧で分かりやすく、CFO による対応も含めて投資家との深い議論が可能な体制が整っている点を評価する声があった。また、投資家の声を踏まえて ROE 目標を明確化するなど、対話を経営に反映している点を評価する声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2項目計）が同得点第2位となった。これに関連して、収益・財務情報の開示は全体として十分かつ充実しているとの声や、適切な開示が行われているとの声があった。「説明会における開示」が同得点第5位となった。これに関連して、決算説明会等においては、経営陣が質問に対して簡潔かつ分かりやすく回答を行っている一方で、企業価値向上に向けた取り組みについては、市場の声を踏まえつつ、より具体的な説明を望む声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM 対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること。また、ウェブサイトで有用な情報提供（月次・過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を日英両言語でタイムリーに行っていること」は同得点第

5位となった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「ダイバーシティなどの人的資本に関連する項目」が第2位、「ガバナンスの実効性に関連する項目」は同得点第4位に、「経営の重要課題（マテリアリティ）に関連する項目」は第5位に、「気候変動問題に関連する項目」は同得点第7位となった。これらに関連して、人的資本およびガバナンスに関する取り組みが実効性を感じられる水準で開示されている点を評価する声が寄せられた。なお、サステナビリティを経営戦略へどのように統合していくのかについて、適切な指標・目標のさらなる見直しや財務指標との関係性の明確化に加え、サステナビリティ、経営企画・IR、人事など本社部門横断での取り組みの充実を望む声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ESG 説明会・施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」が、昨年度に比べて得点率が大きく改善し、同得点第1位となった。また、「情報開示充実の一環として、社外取締役の役割発揮状況について、株式市場の間で理解が深まるような機会を十分に設けていること」は第2位となった。これに関連して、社外取締役との対話について、大規模な形式に加え、スモールミーティングでの対話機会の拡充を望む声があった。充実していたイベントとして、日田彦山線 BRT ひこぼしライン試乗会などを挙げる声が寄せられた。

第3位 日本航空（総合評価点 75.8 点〔昨年度比+1.8 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、ESG 関連（76%）、自主的情報開示（78%）が第3位、経営陣の IR 姿勢等が第4位（73%）、説明会等が同得点第4位（79%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第8位（78%）となった。昨年度に比べて、5分野のうち4分野において得点率が改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役に関する項目」が同得点第3位となった。これに関連して、社外取締役との対話を通じて、投資家視点への理解や取締役会における役割を確認できる点を評価する声が寄せられた。一方で、社外取締役の活動に関する情報開示のさらなる充実や、相次ぐ不祥事に対する取締役会でのモニタリング強化など、社外取締役としての責務の一層の発揮を望む声もあった。「IR 部門の機能」は第4位となった。これに関連して、IR 部門には十分な情報が集積されており、説明が丁寧で分かりやすく、有益なディスカッションが可能である点を評価する声が寄せられた。なお、他社比較による優位性の説明にとどまらず、自社独自の魅力や課題改善に向けた取り組みについて、より充実した説明を望む声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会における開示」の得点率が昨年度に比べ大きく改善し、最も高い評価となった（昨年度同得点第1位）。これに関連して、決算説明会等においては、補足説明を含めた丁寧な説明に加え、複雑な事業モデルを分かりやすく伝える工夫が継続されていることや、燃油価格高騰による損益影響と対応策について分かりやすい説明が行われている点を評価する声が寄せられた。一方、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2項目計）が同得点第14位となった。なお、国内線・国際線や旅客・貨物等サブセグメント毎の収支開示や増減益分析等、開示の工夫・充実を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM 対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること。また、ウェブサイトで有用な情報提供（月次・過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を日英両言語でタイムリーに行っていること」は同得点第8位となった。これに関連して、英語でのカンファレンスコール開催など海外投資家向けの情報発信に取り組んでいる点を評価する声があった。なお、観測記事への対応や不祥事が継続していることに関する投資家向けの経過説明について、より積極的な情報発信を望む声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「経営の重要課題（マテリアリティ）に関連する項目」の得点率が大きく改善し、最も高い評価となった（昨年度同得点第1位）。また、「ダイバーシティなどの人的資本に関連する項目」が第3位、「気候変動問題に関連する項目」は同得点第4位に、「ガバナンスの実効性に関連する項目」は同得点第9位となった。これらに関連して、脱炭素に向けた考え方や取り組みが明確に示されていることに加え、グループ経営ビジョン 2035 においてサステナビリティが経営戦略に統合され、社会課題の解決を事業機会につなげる価値創造や KPI 設定が行われている点を評価する声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ESG 説明会・施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」は同得点第1位となった。また、「情報開示充実の一環として、社外取締役の役割発揮状況について、株式市場の間で理解が深まるような機会を十分に設けている

こと」は第4位となった。これらに関連して、社外取締役との定期的な対話の機会が有益であるとの声が寄せられた。充実していたイベントとして、CFO ミーティングや Airbus 説明会を挙げる声があった。

以 上

20265度 ディスクロージャー評価比較総括表 (運輸)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	9020 東日本旅客鉄道	78.3	28.1	1	15.6	2	4.1	1	23.8	5	6.7	1	3
2	9142 九州旅客鉄道	76.4	26.7	3	15.4	3	4.0	5	23.8	5	6.5	2	1
3	9201 日本航空	75.8	26.4	4	15.1	4	3.9	8	24.2	3	6.2	3	2
4	9107 川崎汽船	75.7	27.4	2	14.8	6	3.9	8	23.8	5	5.8	5	4
5	9101 日本郵船	74.3	25.9	6	14.6	7	3.9	8	24.6	1	5.3	6	5
6	9202 ANAホールディングス	73.9	25.9	6	15.1	4	3.8	14	24.4	2	4.7	12	5
7	9104 商船三井	73.6	26.3	5	14.4	9	4.0	5	23.9	4	5.0	11	7
8	9007 小田急電鉄	73.2	25.9	6	15.7	1	4.1	1	22.4	9	5.1	8	9
9	9042 阪急阪神ホールディングス	70.4	23.4	12	14.1	12	3.9	8	23.8	5	5.2	7	9
10	9024 西武ホールディングス	70.1	24.5	9	14.3	11	3.9	8	22.3	11	5.1	8	12
11	9147 NIPPON EXPRESS ホールディングス	68.5	23.9	11	13.1	17	3.9	8	21.6	14	6.0	4	13
12	9005 東急	68.0	22.8	13	14.5	8	4.0	5	22.3	11	4.4	14	8
13	9021 西日本旅客鉄道	67.2	22.3	14	14.4	9	3.8	14	22.4	9	4.3	16	9
14	9143 SGホールディングス	65.9	22.1	15	13.8	14	3.8	14	21.8	13	4.4	14	15
15	9065 山九	65.5	24.0	10	13.4	16	3.7	17	19.3	18	5.1	8	14
16	9023 東京地下鉄	61.6	20.4	16	13.9	13	4.1	1	20.7	16	2.5	18	17
17	9064 ヤマトホールディングス	61.3	20.4	16	11.4	18	3.7	17	21.1	15	4.7	12	18
18	9022 東海旅客鉄道	61.2	20.0	18	13.5	15	4.1	1	19.7	17	3.9	17	16
	評価対象企業評価平均点	70.12	24.27		14.27		3.92		22.59		5.07		

2026年度の具体的評価項目および配点（運輸）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（36点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営トップが企業価値向上の手段としてのESGや、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
③社外取締役が投資家の代弁者としての役割期待を十分に理解した上で、投資家の要請に応えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	6
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、かつアナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、担当者と有益なディスカッションができますか。また、投資家のニーズに合わせ、ESG関連部門などと連携をとっていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（19点）	配点
(1)説明会における開示	
・決算説明会等における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
①収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	4
②会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切ですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、ウェブサイトで有用な情報提供（月次・過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を日英両言語でタイムリーに行っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
4. ESGに関連する情報の開示（32点）	配点
①経営の重要課題（マテリアリティ）の特定プロセスを示したうえで、企業の経営理念やパーパスと整合した経営戦略に基づく事業活動を通じて、マテリアリティの解決に取り組むことで、将来の企業価値につながるといった価値創造プロセスを魅力的なストーリーとして投資家に示していますか。	8
②気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標や目標達成の実効性が確認できるロードマップおよび具体的なアクションプランなど、定性・定量両面で十分に開示していますか。	8
③ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。	8
④ガバナンスの実効性を確認するうえで重要な情報開示（例えば、サクセッションプランのプロセスおよび内容、役員報酬制度のインセンティブ設計としての適切性、取締役会の実効性評価やスキルマトリックス活用によるガバナンス改善活動状況等）が十分にされていますか。	8
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	配点
①情報開示充実の一環として、社外取締役の役割発揮状況について、株式市場の間で理解が深まるような機会を十分に設けていますか。	4
②ESG説明会・施設見学会・事業説明会・IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容は充実していますか。 【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	4

運輸専門部会委員

部 会 長	姫野 良太	JP モルガン証券
部会長代理	安藤 誠悟	大和アセットマネジメント
	尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	土谷 康仁	東海東京インテリジェンス・ラボ
	手塚 裕一	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	松崎 亘	JP モルガン・アセット・マネジメント
	米澤 正祥	大和証券

評価実施アナリスト（20名）

安藤 誠悟	大和アセットマネジメント	富田 展昭	極東証券経済研究所
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	濱野 亮	SMBC 日興証券
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	原嶋 悠也	SOMPO アセットマネジメント
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券	姫野 良太	JP モルガン証券
川嶋 宏樹	SMBC 日興証券	広兼 賢治	野村證券
菊崎 雄太	ニッセイアセットマネジメント	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
三箇 和樹	三井住友 DS アセットマネジメント	百田 史哉	三井住友トラスト・アセットマネジメント
田畑 剛	野村アセットマネジメント	安田 秀樹	東洋リサーチアドバイス
土谷 康仁	東海東京インテリジェンス・ラボ	米澤 正祥	大和証券
手塚 裕一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	松崎 亘	JP モルガン・アセット・マネジメント

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。